

## 〈コラム〉

# ワークショップで地域資源を発掘しよう！

14

## ワークショップとはなにか？

ワークショップの原義は「仕事場」「作業場」です。参加者が専門家の助言を得ながら自主的に行う共同研究のこと。研究会または、体験をする講習会。解決したい事項をテーマとして定め、専門、非専門の区別なく参加者が自由な討論や交流を行う、その結果から何かを発見・創造するものです。必ずしも完成された“仕事”を目標とはせずに、共同作業を通して自分達が目指す方向を確かめることにも使われます。

今回の地方鉄道とグリーン・ツーリズムによる交流事業については、ワークショップによって、①地域資源の発掘、②体験プログラム開発、③交流イベント、体験ツアーの実施に向けた役割分担と実施を行いました。このように一連の交流活動の企画から実施に向けた関係者の意見交換および人間関係の醸成、具体的な行動に向けての段取り合わせ等を行いつつ、交流活動の活動を進めていきます。

### 大井川事業のワークショップで検討および実施した事項

1. 地域資源、グリーン・ツーリズム資源の洗い出し
2. 体験および地域資源案内等の関係者のリストアップ
3. モニターツアー実施に向けての体験プログラムの検討、作成
4. モニターツアー実施に係る役割分担
5. 東京(板橋区商店街)におけるPRイベント活動等の参加および内容の検討
6. モニターツアー、東京でのPRイベント活動実施結果の検証
7. 体験メニューパンフレット作成

15

## 事業の計画から実施、検証までの流れをワークショップで検討

ワークショップを開催するには、まずはじめに①「ワークショップ開催の目的」、②「参加対象者」、③「開催テーマとワークショップによって得ようとする成果」、④「開催日時・場所および回数」、⑤「開催のプログラム」⑥「ファシリテーター(ワークショップの進行役)は誰が務めるかなどを計画します。

次に、⑦会場や資料の準備手配、⑧参加者の募集、⑨進行役のファシリテーターとのプログラム・進行の打ち合わせ、そして本番のワークショップに備えます。大井川事業においては、まちむら交流きこうがファシリテーターを務め、以下の流れで交流事業を実施してきました。



## 本事業でのワークショップの流れ

### ① 目的および事業の概要を検討する

ワークショップで検討する事項(観光・交流人口を増加するために、どのような方法が考えられるか等)を検討し、地域資源の発掘など次のステップに進むための動機付けを行います。

### ② 具体的な地域資源の掘り起こし

地域資源の発掘について、参加者全員から観光、伝統文化、景観、食、人材などありとあらゆる地域の魅力について意見出しを行います。

### ③ 作業スケジュールを決める

発掘された地域資源をベースに体験ツアーの実施に向けて、概ねのスケジュール、それぞれの担当等の意見交換調整を行います。

### ④ 体験プログラム(商品)づくりを検討し、参加者を募る

体験ツアー実施に向けて、体験プログラムの内容、金額、行程等を検討し体験ツアー募集案内を作成します。

### ⑤ 体験ツアーを実施する

ワークショップで検討してきたことを実際の参加者を得て、体験ツアーを実施します。

### ⑥ 実施結果を検証する

体験ツアーの実施後、参加者アンケートを回収し、良かった点や改善すべき点を把握するなどして結果を検証します。

## ワークショップの成果



ハッピーロード大山商店街(板橋区)でのPRイベント

ワークショップとモデルツアーの繰り返しにより、地域の農家・観光関係者と大井川鉄道との情報交換がよりスムーズになりました。また、ワークショップで検討した新たな地域資源の発掘と、その資源を活用した体験プログラムの作成により、毎年異なった内容のモデルツアーを実施しプログラム(商品)の検証もできました。

その結果、関係者が自ら住む地域の魅力に自信をもち、より一層前向きに取り組む雰囲気が出ています。

一例として、お茶オーナー制度などの新たな構想に前向きになりはじめ、実現できれば、年間を通してリピーター客を確保できます。地域特産品であるお茶、そして、お茶体験と大井川鉄道の三本柱を生かした商品を生み出そうとしています。

都市住民が農山漁村に行く体験ツアーだけでなく、農山漁村側が都市に出向いて行う商店街でのイベントを展開してきました。ツアー参加者との再会をとおして、リピーターとして再度訪問するきっかけづくりが図られ、商店街からは今後も交流イベントの実施を期待されています。このようなPRイベントは、大井川流域の名産「お茶」を活用した農工商連携へのきっかけづくりに大きく寄与してきました。



16